

連日のメダルラッシュに、日本列島が沸いています。

感染急拡大の下、賛否両論があった東京オリンピックが開催されています。

アスリートの頑張りに感動を覚えることも多く、勝っても負けても声援を送りたいと思います。

また、勝者と敗者のコメントから学ばせていただいていることに感謝したいです。

記憶に留めて置きたいと思ったコメントが幾つかあります。例えば、

「心を動かされた場面が少しでもあったら、光栄です」 （男子柔道の大野選手）

「昨日までは迷っていました。怖かった」 （女子ソフトボールの宇津木監督）

コロナ禍においてオリンピックを行っているという、前例なき世の中において、思考をどのように働かせて、判断・決断にたどり着き、発信をいかに行うかの難しさ。そして、適切であるという前提を踏まえられるところまで根拠を高めることの大変さなど、予測困難な時代に最適解を出し続けるには、自らを「問い続ける姿勢」を忘れてはいけないと強く思います。

上記で紹介した大野選手は「自分を倒す稽古に励む」という言葉を発していました。最強の柔道家と言われる所以は、こうした自分磨きの鍛錬にあるのかなと思いました。

「質が高い」「視点が凄い」と感ずる言葉から、知恵を増やして行きたいです。